# 難燃性マグネシウム合金ダイカストによる 自動車用大型部材製造(第3報)

鈴木大介・阿部治・佐野正明・三井由香里・宮澤航平・長田和真(産業技術センター)・ 松本敏治(株式会社戸畑製作所) • 千野靖正(産業技術総合研究所) 行武栄太郎(茨城県産業技術イノベーションセンター)

#### 〇自動車の燃費向上は急務

- 〇エンジンの効率化・車体の軽量化
- 〇実用金属最軽量マグネシウム合金に注目





〇微粉塵化・溶湯化すると燃えやすい

- 〇イオン化しやすい金属で耐食性に劣る
- 〇表面処理に有害薬品を使用

【NEDO委託事業】

SL:産業技術 総合研究所

アドバイザ機関:5企業

PL:戸畑製作所(GMC)

SL:山梨県産業技術センター

SL:茨城県産業技術 イノベーションセンター

鋳造協力機関:10企業

自動車用タイヤホイールの量産製造のためのダイカスト鋳造技術の開発と環 境に配慮した表面処理の適用による耐食性向上およびその実用化技術の確立

### 【これまでに得られた成果】

〇難燃性マグネシウム合金を開発に成功

(前NEDO事業,特願2021-153698)

〇環境に優しい表面処理技術の開発に成功

(産技セ特許,特許第6302696)

〇14インチホイールに対し表面処理の適用

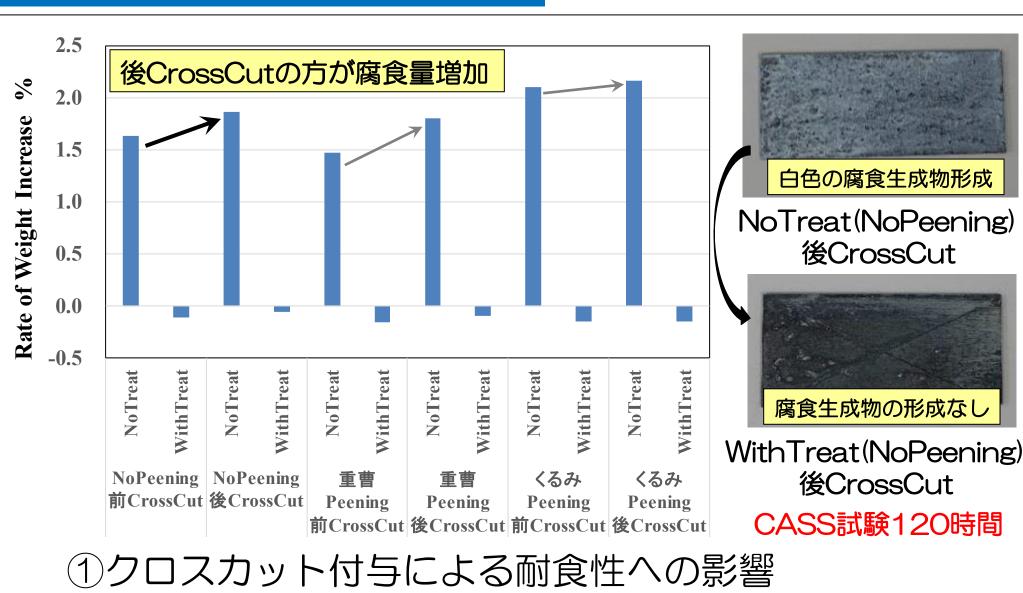
耐食性向上を確認

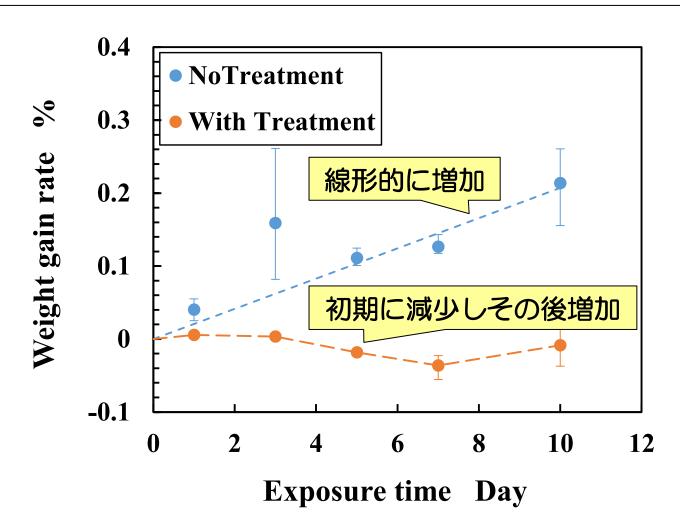
〇16インチホイールのマグネシウムダイカスト鋳造に成功 (型締め力1650トン)



マグネシウムホイール

## 【実用化に向けた検討】





NoTreatment WithTreatment

表面処理された皮膜が溶 解することで重量が減少 し、その後皮膜が完全に 失われ、素材が腐食して

重量増加する。 CASS試験120時間

②表面処理の有無による腐食生成物増加状況

#### 16インチホイール



NoTreatment

16インチホイール

WithTreatment ③ホイールの耐食性試験 CASS試験120時間

部分的に腐食が進行

2.5 CASS試験240時間 -O-NoTreatment □ CASS **—**WithTreatment 2.0 240H Rate of Weight increase 120時間を超 えると急激に 増加 CASS 120H CASS 48H SST 0.5 240H 0.0 200 **250 150 Corrosion Testing Time H** 

試験時間120時間ま では、無処理ホイー ルと表面処理ホイー ルとの間に差が認め られたが、240時間 では両者に差は見ら れなかった。



CASS試験による評 価では、試験時間50 ~100時間程度が適 切と考えられる。

# 【今後の展開】

ホイールの製品化を目指すとともに、自動車部品を含むダイカスト部材への応用展開を図る。

\* 本研究は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託事業により実施した研究であり、関係各位に深く感謝いたします。



